

| | | | |
|---------------------------|------------|--------------|-------------|
| 心理学的な理論と支援(高齢者心理学) | 単位数 | 履修方法(授業形態) | 配当学年 |
| | 4単位 | R | 1・2年 |
| | 担当教員 | 加藤 伸司 | |

■授業のテーマ

生涯発達心理学の視点から高齢者や認知症者に関連する理論と全人的ケアの実践を理解する。

■授業の目的

福祉心理、社会福祉領域に共通する分野である高齢者心理学に関する専門知識と、支援にあたる基本姿勢を修得する。

■授業の到達目標

- ・ 高齢期の認知機能の低下やパーソナリティの変化、対人関係、欲求と適応など、心理学的諸問題を系統立てて理解し、説明できる。
- ・ これまで通説としてとらえられてきた誤った高齢者像を科学的根拠に基づいて正し、説明できる。
- ・ 加齢が心身機能にどのような影響を与えるのかについて理解し、特に認知症の人と家族に対する心理学的援助法を理解し、説明できる。

■授業の概要

心理学の分野におけるこれまでの研究の多くは、乳幼児期から青年期、成人期を対象に行われたものが多く、特にわが国における高齢者心理学の研究は乏しかったのが現状である。しかし急速に進んだわが国の高齢社会において、心理学に期待される役割は大きい。

「心理学的な理論と支援（高齢者心理学）」では、高齢期を生涯発達心理学的視点からとらえ、加齢が心身機能に及ぼす影響について検討していく。特に高齢期における認知機能の変化やパーソナリティの変化、対人関係、欲求と適応等の心理学的諸問題を系統的に理解し、これらの現象が高齢者の生活にどのような影響を与えていくのかをふまえた上で、高齢者及び認知症の人に対する心理学的な支援と具体的方法について考察する。

■在宅学修15のポイント

| | テーマ(テキスト関連章) | 学修内容(・キーワード) | 学びのポイント |
|---|-------------------|--|--|
| 1 | 生涯発達心理学における高齢期の理解 | 生涯発達心理学 ハヴィガースト エリクソン ビューラー サクセスフルエイジング 主観的幸福感 | 生涯発達心理学の観点から、高齢期の発達理論を学修する。 |
| 2 | 心理学的側面から見た加齢の考え方 | 加齢 研究法 個人間差異 個人内差異 | 加齢の考え方を身体的側面からだけではなく、心理学的側面から理解する。 |
| 3 | 加齢が感覚・知覚機能に及ぼす影響 | 視覚 視力 視野 色彩 順応 聴覚 味覚 触覚 | 加齢が視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚などにどのような影響を与えるのかを理解する。 |
| 4 | 加齢が注意力に及ぼす影響 | 持続注意 選択的注意 分割的注意 | 注意には、単純な注意集中から複雑な注意集中があるが、加齢がどのような注意力に影響を及ぼすのかを理解する。 |
| 5 | 加齢が反応に及ぼす影響 | 反応時間 単純反応 選択反応 反応エラー | 加齢が反応時間の遅れにどのような影響を及ぼすのかを理解する。 |
| 6 | 加齢に伴う記憶機能の変化 | 感覚記憶 短期記憶 長期記憶 エピソード記憶 意味記憶 手続き的記憶 忘却 | 記憶の保持時間や質的記憶に加齢がどのような影響を及ぼすのかを理解する。 |

| | テーマ(テキスト関連章) | 学修内容(・キーワード) | 学びのポイント |
|----|----------------------|---|--|
| 7 | 加齢に伴う知的機能の変化 | 定義 横断的研究 縦断的研究 縦列法 結晶性知能 流動性知能 終末低下 認知機能検査 | 加齢が知的機能にどのような影響を及ぼし、加齢による様々な変化の側面が知能低下にどのような影響を及ぼすのかを理解する。 |
| 8 | 加齢が感情機能に及ぼす影響 | 喪失体験 感情表出能力 感情解読能力 | 人には様々な感情があるが、加齢が感情のどのような側面に影響を及ぼすのかを理解する。 |
| 9 | 加齢が人格に及ぼす影響 | 性格変化の方向性 性格の安定性 ライチャードの類型 | 人は様々な人格を持っているが、加齢が人格のどのような側面に影響を及ぼすのかを理解する。 |
| 10 | 加齢に伴って起こる対人関係の変化 | 心身機能の変化 役割の喪失 家族関係 生活環境 地域活動 | 加齢に伴って起こる様々な変化が、高齢者の対人関係にどのような影響を及ぼすのかを理解する。 |
| 11 | 高齢者の欲求と適応 | マズロー ストレス反応 サクセスフルエイジング 主観的幸福感 QOL | 加齢が高齢者の欲求にどのような影響を及ぼすのか、また高齢者の適応的な生活にどのような影響を及ぼすのかを理解する。 |
| 12 | 認知症の理解① 原因疾患別の特徴 | アルツハイマー型認知症 血管性認知症 レビー小体型認知症 前頭側頭型認知症 | 代表的な四大認知症の原因と特徴について理解する。 |
| 13 | 認知症の理解② 認知症の心理的特徴の理解 | 不安感 ケアの原則 パーソンセンタードケア 心理的ニーズ 悪性の社会心理 | 認知症によっておこる症状が、心理面にどのような影響を及ぼすのかを理解する。 |
| 14 | 認知症の家族の理解 | 介護負担 悪循環 家族関係 虐待防止 QOL | 認知症を介護する家族の課題を理解し、家族の心理的側面にどのような影響を及ぼすのかを理解する。 |
| 15 | 高齢期と死の問題の理解 | 在宅死 心臓死 脳死 死の恐怖 キュー ブローロス 尊厳死 悲嘆のプロセス | 高齢期と死の問題について、その受容過程と遺された人の問題について理解する。 |

■レポート課題

| | |
|------|---|
| 課題 1 | 高齢者の心理学的諸問題について、これまで通説として知られてきたものが誤りであることが様々な研究結果から明らかになってきている。このような問題を一つとりあげ、過去の通説が心理学的研究の結果からどのように明らかにされたのかについて自分自身の意見を交えて解説せよ。 |
| 課題 2 | 高齢期に多くみられる認知症について、その原因と種類、特徴などについて触れ、認知症高齢者および介護家族に対する心理学的援助法について自分の意見を交えて解説せよ。 |

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス



「高齢者心理学」「エイジング」「老年学」「認知症」ということばをキーワードに、現在刊行されている学術論文や書籍を参考に、これまでの通説と新たな発見について簡潔にまとめ、自分自身の意見を取り入れてまとめていく。



認知症高齢者に関する心理学的視点からの書籍や文献は少ないため、医学や看護、介護、福祉の視点から書かれている書籍や文献も参考にし、自分自身の意見を取り入れて課題をまとめていく。

■評価の方法・基準

- ・課題レポートによる評価を行う（課題レポート66%、試験レポート34%）。
- ・評価は、高齢者の様々な事象に対する先行研究について客観的に記述されたものを評価する。
- ・先行研究に加え、自分なりの考察を加えているレポートであることを重要視する。

■参考文献（*印=大学から送付される必読図書）

- * 1) 加藤伸司編 『発達と老化の理解』介護福祉士養成テキストブック10 ミネルヴァ書房 2010
- * 2) 加藤伸司著 『認知症の人を知る』(株)ワールドプランニング 2014
- * 3) 日本認知症ケア学会編 『認知症ケア標準テキスト 改訂4版・認知症ケアの基礎』(株)ワールドプランニング 2016
- * 4) 大塚俊男、本間昭 監修 『高齢者のための知的機能検査の手引き』(株)ワールドプランニング 2011
- * 5) 長谷川和夫・加藤伸司著 『改訂長谷川式簡易知能評価スケールの手引き』中央法規 2020
- 6) 黒川由紀子編 『老いの臨床心理』日本評論社 1998
- 7) 東京都老人総合研究所編 『サクセスフル・エイジング』(株)ワールドプランニング 1998
- 8) 下仲順子編 『老年心理学』培風館 1997
- 9) 柴田博 他著 『間違いだらけの老人像』川島書店 1985